

## 一般質問通告書

上記の件について、下記のとおり質問したいので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

平成30年8月22日  
東村山市議会議長 あて

議席番号 8番  
質問者 渡辺 英子

### 記

#### 1. 災害に強い東村山へ 避難所運営は誰が担うのか

9月1日は防災の日ということで、9月は防災・減災について質問を重ねてきた。今回は任期4年間最後の9月ということで、これまでの答弁からの進捗と人的物的資源の少ない中でもご努力いただいてきた各施策を確認するとともに、さらに発災時により実効性のある自助力強化をめざしていきたい。

(1) 直近4年間の防災・減災関係の施策について確認する。

- ①災害時の他自治体との広域連携について27年12月議会一般質問で答弁をいただいたが、その後、さらに拡大されている。この4年間の新規連携の内容とこれによる効果を伺う。
- ②自主防災組織と避難所運営連絡会の進展について伺う。28年9月の答弁以降の変化を伺う。
- ③市主催の防災訓練、水防訓練で新規に工夫した点について伺う。特に開催場所、市内外の声かけの範囲、訓練内容について伺う。
- ④防災情報の発信については、Twitterで防災メモ、東村山の守り手という冠をつけ、毎週水曜日に情報発信を始めたか、HPトップページから防災情報へのアクセスを改善したりして発信力を高めている。この情報発信の詳細を確認する。また、これによる反響、効果はあったか。
- ⑤土のうステーションの設置、活用の状況について伺う。また課題は何か。
- ⑥備蓄で新たに強化した点があれば伺う。液体ミルクの備蓄を予定しているか。
- ⑦29年9月の一般質問の答弁で市長もご懸念を示しておられたが、耐震化工事が終わったことも踏まえ、庁舎内の転倒防止対策を進めるべきと考えるが、見解を伺う。
- ⑧今年度、市役所を經由した講座活動（消防、自治会活性化委員会など）、また直接職員が行った防災講和の回数、参加者数、内容を伺う。また、その他にも把握している市内で開催された防災・減災講座があれば伺う。

(2) これまでの施策を踏まえ、さらに市民の自助力と避難所運営連絡会の強化を提案する。

- ①避難所運営連絡会で今後防災訓練を行っていくことになると思うが、おおよそのタイムスケジュールを確認する。
- ②東村山市としての被災地への職員派遣の内容を伺う。場所、期間、仕事の内容を伺う。
- ③こうした経験は大変貴重だが、これらの経験や知見をどの範囲にどのように共有したのか。また、市の施策に生かされたか。
- ④避難所運営連絡会や自主防災組織など、市民で防災に興味のある方にこうした職員の経験を共有してほしいが、見解を伺う。
- ⑤こうした経験の共有を含め、これまでも市民防災リーダーの育成を提案してきた。

29年9月議会の渡部市長の答弁では、避難所運営に職員の避難所要員を配置することで一定の努力をしている、防災に人を増やすとなると他とのバランスが難しいとのことだった。

避難所運営は生活全般にわたり、さまざまな困難を抱えた市民が最後に頼ってくる場所になる。避難所要員を含め、市民への防災教育、中でも避難所運営にかかわる情報の提供をこれまでも求めてきた。

委託事業にすることも含め、防災リーダーなканずく避難所運営に携わる人たちへの情報共有や啓発活動を具体的かつ計画的に進めていくことを求める。見解を伺う。

## 2. 平成31年度から始まる森林環境譲与税の交付について伺う。

- ①36年度までの東村山市の予想交付額を伺う。東京都からの支援はあるのか。
- ②この交付税の当市での目的を確認する。市として想定している使い道はなにか。基金のように積み立てることは可能か。
- ③目に見えるところで国産材を啓発するために、公園の整備に活用することを提案する。また、積み立てが可能であれば基金を創設し、センター構想や総合計画とも連動して「人と人 人とみどりが響きあい 笑顔あふれる 東村山」の具現化に活用すべきと考えるが、渡部市長の見解を伺う。

以上